



# 森ボラ 通信

第239号 2022年4月20日発行  
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**  
URL <https://www.shinrin-npo.info/>  
札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター  
TEL (fax.): (011) 816 - 7010  
E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

## トピックス

### ◆ 冬季セミナー 「命をつなぐー植物を例に」

4月5日の森ボラ第3回冬季セミナーで北海道ボランティア・レインジャー協議会会長の春日順雄(かすがよりお)先生から、植物の生存戦略についてのお話を聴きました。先生の豊富な資料を基に研究成果を講演され、1時間で岩波新書1冊を読んだ気分でした。

私たちの身の回りのありふれた野草や樹木を取り上げ、花を咲かせ、実をつけ拡散されるまでの様々な工夫を知ることができました。植物にとり成長することは子孫を残すための営みそのものでありそれは植物にかぎりません。

早春のスプリング、エフェメラル(臨床植物)は雪解けと同時に発芽、開花、結実、枯死を、樹木の葉が大きくなる前に終わらせるミツキ植物です。花が大きいのは太陽光をたくさん浴びる作戦で中心は暖かく蜜もあり受粉のための虫を呼ぶためのもので、すぐに発芽しても5,6年位かけてやっと開花しさらに実をつけるのはほんのわずかでそのために大量の種子を必要とします。植物はどのようにしてこれらの知恵を身に着けたのか謎ですが一見当たり前に見える事にもそれなりの理由があります。

先生は花の具体的特徴を上げて説明していましたが、その一部を書いてみました。

- ・ウコンウツギは受粉して赤くなる
- ・笹やウバ百合は一生に一度しか開花しない
- ・蜜を出さない花もある
- ・マムシ草は花が性転換する
- ・鳥に捕食される実は発芽抑制物に包まれ遠く移動して消化排出して発芽する。ただ種を蒔いても発芽はしない
- ・こぶしの種は紐がついて下がる
- ・ヤドリギは二又交枝で1年に一つの二又しかできない

ほかにも色々聞きましたが一口に自然観察といっても奥が深く自然界は未知にあふれ、森を歩き草木の名前を覚えるのは入り口です。何故かという疑問が大切です。

生物は単独では生きられず、外敵と戦いつつそれぞれの生態系の中で命をつないでいます。(文・加藤)



## 活動報告

### ◆ 第7回(最終回) 親子森林教室・森しり隊の活動報告 森の春の目覚めを感じ、修了式を行う!

3月13日(日)、スタート時は少し曇り空でしたが、やがて青空となりプラスの気温、風はなく穏やかな過ごしやすい気候となりました。本日の参加者は、森しり隊16名、保護者15名、幼児3名、協会員14名、総勢48名の参加です。

最初に受付です。消毒そして検温、まん延防止等重点措置の期間中でしたが、早く終わりにしたいものです。森は2月と違い樹々の枝が伸び伸びして春を感じます。先月に冬芽のついた枝を持ち

帰った3割ほどの隊員から、枝から葉が出てきたと報告があり、樹々の生命力を感じました。まずはラジオ体操で体をほぐし、その後慣れた手つきでスノーシューを装着、広場から上流橋に向かう途中の作業道沿いの樹液採取場所に向かいました。今年の冬は記録的な大雪で澄川も例年以上の沢山の雪が残っていました。

3班に分かれ、樹液採取装置を取り付けているイタヤカエデのところに到着。樹液が貯まっている容器を外して、みんなで樹液を味わいました。ほのかに甘く、今しか味わえない旬の天然水です。さらに樹液を3日かけて煮詰めたシロップ状のもの



上流橋に向かう作業道沿いの森で行われた樹液採取活動の様子

のをクラッカーにつけて味わいました。やさしい甘さのシロップです。樹液採取用のスパイルを打ち込んでいた穴にはイタヤカエデの小枝を木の栓として打ち込み、樹液がもれ出てこないように穴を修復しました。イタヤカエデさん、来年も少しおすそ分けをお願いします。

その後、新たに別のイタヤカエデに子供たちが電気ドリルを使い、樹液採取用のスパイル器具をセットしホースでタンクに受けるようにしました。すぐにパイプから樹液がしたたり落ちて、採れたての新鮮な樹液をなめていました。



きれいに出来上がったマイリーフ

会場に戻り、マイリーフのラミネート加工をしました。昨年6月と10月に樹木園で採取し、採った葉っぱを新聞紙に挿み押し葉にしておいたものです。木の葉(マイリーフ)と、各自「木の説明書きカード」を合わせて、A4判のラミネート加工で完成させました。大きな葉っぱ、小さな葉っぱ、薄緑、紅葉など、それぞれの葉っぱの配置、デザイン上手です。ラミネート加工は少し時間がかかりました。

今年度は7回森を訪れましたが、今日は修了式です。来年は中学生の人もいました。

樫棒代表幹事から、樹々の成長とともに子供たちも成長しました。お父さん、お母さんたちとここを訪れて、木の音、におい、風の感触など体全体で感じてもらえたことと思います、これからも気分転換に森を訪れてくれると嬉しいです、と挨拶がありました。

森しり隊員からは一年間の感想の発表がありました。森の運動会、伐倒体験、キノコの植菌、ホタル・コウモリの夜の森の中の体験、オタマジャクシ、サンショウウオ、どんぐりそろばん作りなどなど、各自の思い出に残る発表がありました。さらに、こんなに楽しい森の体験ができるのに、なんで人間は森を破壊しているの？ 森の知識を深めたい、ホタルが増えるように森を守りたいと。若い力、頑張りましょう。

酒井さんから、今年の雪の多さには一番おどろいています。でも雪の効用として樹々は暖かくなる4月ごろから大量の水を吸収します。雨と違い雪はじっくりと木の為に水を与え続けるので、木にとってはとても良い環境になります。との話がありました。

最後に森しり隊員一人一人に、澄川の森のイタヤカエデで作った楯の終了証が授与されました。この木は30~50年の年輪のある木の楯です。その後記念撮影を行い閉会しました。コロナ禍でいろいろと制約のある中での活動でしたが、一年間無事に事故もなく終了できたことに感謝・感謝です。(文・平)



修了証楯を手にした森しり隊員



## 「家族で森林ボランティア『コモドの森』をはじめます」

今までの親子森林教室などの環境教育活動とは別に「もっと気軽に森に親しみたい」「子供と森で遊びたい」といった要望にお応えするため、新たなコンセプトで『コモドの森』会員制度を作りました。

『コモドの森』は年齢を問わない**親子や兄弟姉妹、祖父母と孫**などの「**家族単位**」での募集となります。季節を問わずほぼ毎週土日のどちらか開催しています。

「コモド (comodo)」とはイタリア語で「気軽」「気楽」「急がない」「心地よい」という意味です。つまり『コモドの森』に集う人々は「急がず」「自分のペースで」「気楽に」森を楽しみたい人々の集いの場です。

### 【コモドの森の会員の概要】

- 活動期間：各年4月～翌年3月まで（R4年度は5月からです！）
- 入会条件：特に無し（但し保護者は家族の安全と責任を持って管理してください）
- 年会費：1家族1,000円/年（傷害保険料含む）  
☆参加都度の費用はかかりませんが**1年限定**です。翌年もコモドの森に参加するには保護者が正会員になる必要があります（その時は入会金が免除になります）
- 現在の森ボラ正会員の方は費用負担なくコモドの森に入会できます。しかも参加家族数の制限もないので、いつでも参加する事ができます。

会員の皆さん、ご家族を連れて森に来て、俺は森ボラでこんなことをやっているぞと見せてみませんか！ 「コモドの森」会員の登録が必要ですのでお忘れなく。

## ハンノキ（榎の木・カバノキ科）

高さ10～20mになる落葉高木、地下水位の高い湿地や低湿地を好む。

葉は単葉で互生、雌雄同株。4月、葉より早く開花する。雄花序は枝先に付き、尾状に垂れ下がる。雌花はその下に5～6個、木質の松ぼっくりに似た果穂を付ける。これは翌年の春まで残っている。

丁度、広場から見えるハンノキは条件にぴったりの場所にあります。この木は地上1m位の所から2本に枝分かれしていて、左の枝は、枝分れした所から上へ2m位、クマゲラに縦長に穴を開けられています。もう、2～3年前の事でしょうか。

3月、暫らくぶりにこの木を見たら、どうも西側に少し傾きかけている様に見えました。年内に倒れるかもしれません。

先月、ラジオの天気予報を聞いていましたら、花粉情報で「今年はハンノキの花粉が多く飛んでいます」、と言っていました。シラカンバでなくハンノキと言っていたのでびっくりです。

(写真・文/西野(澄))



## ■ 今月の幹事会

出席者(4/7):大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・釣井・西野(澄)・松藤・三橋・矢澤・矢野

1. 2022年5,6月活動スケジュール(5月幹事会5月10日(火)):コロナの状況を注視
2. 2022年3月末会計報告:了承
3. 2022年度森林・山林多面交付金事業活動計画:澄川、野幌、水明の面積24.2haを申請、承認。
4. 2021年度親子森林教室のまとめと2022年度の活動:了承
5. コモドの森の運用:2022年度5月からスタート。了承。
6. ホームページ改修内容:了承。
7. 活動交通費の個人口座振替による運用:会員への周知徹底必要。機会毎に説明。
8. 第20回総会議案:5月9日(月)開催。
9. 現場報告
  - ・整理伐進捗状況:雪解け時に終了予定。
10. その他
  - ・20周年記念専門委員会:第8回委員会終了。
  - ・北海道山林種苗組合青年部寄贈苗:4業者から328本の苗をいただく事が決定。
  - ・2022年度主な補助・助成先:例年通りの予定。2019年度の資料を探す。
  - ・助成活動について:トムソーヤ企画コンテスト応募予定。
  - ・株じょうてつのCSR活動受入れ:4/12来林、札幌市みどりの管理課同行し現地打合せ。

## ■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
3月16日(水)	澄川	16	E-7区整理伐、ホダ木作り
3月17日(木)	第3回冬季セミナー	-	コロナ対策として4/5に延期
3月21日(月)	澄川	17	E-7区整理伐
3月24日(木)	野幌道有林→澄川	13	積雪のため澄川に変更。E-7区整理伐
3月26日(土)	澄川	11	E-7区整理伐
3月29日(火)	有明→澄川	14	積雪のため澄川に変更。整理伐、標準木調査
4月1日(金)	澄川	15	E-7区整理伐、ホダ木採取、標準木調査
4月3日(日)	澄川	11	E-7区整理伐、ホダ木採取、標準木調査
4月5日(火)	札幌エポラ 2F 環境研修室1,2 第3回冬季セミナー	19	会員例会「2022年度親子森林教室」他 講演:「命をつなぐ—植物を例に」北海道ボランティア・レジャー協議会会長 春日順雄氏
4月7日(木)	ラルズビルB1F	11	幹事会
4月9日(土)	澄川	15	E-7区整理伐、ホダ木採取、門扉修繕調査
4月12日(火)	澄川	16	E-7区整理伐、ホダ木玉切、株じょうてつ来林
4月15日(金)	澄川、(野幌道有林)	9	中流橋修理、親子準備、(野幌防獣網確認補修)